

- ・表紙「三味線と太鼓の小さな演奏会」・・・p.1
- ・安曇野を知る1枚「堀金常念ドーム」・・・p.1
- ・公民館講座
（豊科・穂高・三郷・堀金・明科）・・・p.2,3

- ・グループ紹介「潮沢ロマンの会」・・・ p.2
- ・地区公民館だより「塩川原地区」・・・ p.4
- ・私は一生懸命「中谷 重徳さん」・・・ p.4



三味線と太鼓の 小さな演奏会

穂高公民館は11月24日に今年で3回目の本演奏会を講堂で開催した。

出演は「三味線親子教室（第6期生）」。4カ月前に初めて三味線に触れた子どもたちと保護者らが一生懸命稽古してこの演奏会に臨んだ。

それを太鼓の「あづみの鼓友会」と三味線の「ふぞろいの林檎たち」「伝統文化三味線親子教室OB・OG」が友情出演して盛り上げた。

会は約1時間で、4つの団体がコラボして、津軽じょんから節・信濃の国・木曾節・千本桜・祭りなど様々なジャンルの計10曲を次々と演奏した。聴衆は、三味線の軽快な音色と太鼓の重厚な音、躍動的な演奏、そしてかわいい子どもたちに魅了されて楽しい時間を過ごした。

安曇野を知る1枚 堀金常念ドーム(堀金多目的屋内運動場)

堀金総合体育館の西にある堀金中央公園の南側、公園の芝生と白井吉見文学館の漆喰の壁に常念岳が映える景観の中に常念ドームが建っている。常念岳を背に大型テントの形をしたフッ素樹脂膜材の屋根が昼は陽光を反射し、夜は内部の照明が屋根から黄色光を放ち光り輝いている。約1,400㎡の屋根付きグラウンドに、テニス、ゲートボール、サッカー等の練習の歓声が響いている。



地区公民館だより 塩川原地区公民館（明科）

塩川原地区は明科駅から犀川を挟んだ対岸、押野山の中ほどに位置しています。古くから何世代にもわたって生活を営んでいる家庭が多く、さまざまな伝統行事の継承が課題となっています。

現在の子どもの数は、小中学生を合わせて7人。少子化で伝統行事が途切れつつあります。「三九郎」に合わせた「鐘念仏」は今も子ども会が継続してくれていますが、過去にあった「風の神」などの季節行事はすでに途切れてしまいました。毎年10月のお祭りで用意されるしめ縄は、今年初めて氏子のひとりに依頼して講習会を開き、このしめ縄をお宮に飾りました。

一方で高齢化も急速に進み、スポーツ関連のイベントに地区として参加できないことも多くなってきています。そんな中、今年は5年ぶりに敬老会の懇親会を実施し、27人が参加してくれました。

幸いなことに、子ども世代がコロナ禍を経て帰郷したり、親から役割を引き継いだりしてくれる家庭が増えてきました。40代を中心に若い人たちが里山整備などに参加してくれるのは心強い限りです。

これからも多くの世代の協力を仰ぎながら、公民館活動を続けていけるよう願っています。



【塩川原地区公民館長 望月 良泰】

私は一生懸命 なかや 中谷 重徳さん（穂高）

『木彫りは楽し』

私は今、穂高公民館の木彫りサークル「彫友会」に属し、木彫りを学んでいます。彫友会は昭和57年頃の穂高公民館講座に端を発した木彫り愛好会です。

そもそも私が木彫りをやろうと思ったのは、定年退職後に長く続けられそうな趣味をと思索していた時期に、あの阿修羅像で有名な興福寺で「板彫り十二神将像」のレリーフに出会ったことがきっかけでした。縦90cm横60cm程、厚さは僅か3cmの板彫りの像ですが、立体感・重厚感の見事さに感動し、いつか自分もこのような作品を彫ってみたいと思い、たどりついたのが彫友会でした。



講師のご指導のもと最初に彫った「水芭蕉のレリーフ」は

今でも大切に飾ってあります。以来、会の仲間と共に、草花や風景のレリーフ、動物や仏像などの置物、調度品などの制作に取り組んでいます。

現在は、旅先で出会った高円宮様コレクションの「根付」の芸術性の豊かさに感化されて、初歩の根付を学んでいます。材は主に広葉樹の板材・ブロック材で、硬軟・色・木目等さまざまであり、それを作品にどう生かすか、また、彩色にも腐心しつつ、仲間と楽しみながら木を彫っております。

彫友会の作品は秋の穂高文化祭に出展し、皆さんに見ていただいております。皆さんも世界に一つだけの自分の作品を作ってみませんか。木彫りに興味のある方はいつでも見に来てください。



編集後記

◆安曇野市の公民館報記者をやって、市民の精力的な活動を数多く目にすることができ、また自分も体験や学ぶことができ、自分自身にとって本当にやって良かったと思うことが多い。(Y.I)

◆地域の子どものために大切な時間と手間をかけてくださる大先輩たち。自分もそんな風に歳を重ねていきたいなあと思った取材でした。(M.N)

【公民館講座】

みさと

槍ヶ岳開山 播隆上人
—修行僧の軌跡

今冬最強の寒波が押し寄せた2月5日、本講座が開催された。この日は46人もの参加者があり、会場の三郷交流学習センターゆりのきの学習室は満室状態で、講師を務めた市文書館職員の千村裕一さんの話にも力が入った。

播隆上人は1786年生まれの浄土宗の僧侶で、1828年に槍ヶ岳山頂に三尊を安置し開山した人物であり、その偉業の大きな協力者となったのは小倉村（現在の安曇野市三郷小倉）の中田又重であった。千村さんは、上人の足跡やなぜ槍ヶ岳を目指したのか、なぜ小倉からの登頂を目指し中田に協力を仰いだのか等を、上人が残した絵図や現在の地形図を使い

ながら話した。また生家のある富山市など上人ゆかりの地ごとに、伝わっている功績が違っていることも興味深いとした。

参加者からは「普段感じていた疑問が今日の話で晴れた」という声も聞かれ、館長からは「上人から何を学び今に何を生かすべきか考えさせられる」と最後にあいさつがあった。三郷公民館では、来年度の講座として槍ヶ岳開山に大きな役割を果たした「飛州新道」についての講座を計画している。



とよしな 睡眠と健康の知恵袋

豊科公民館は1月30日と2月6日の全2回、本講座を開催した。講師は明治安田生命保険相互会社松本支社の斉藤功子さんと安曇野営業所の山崎佑介さん。受講者は計13人。

初回は、よい睡眠をとるための3つのステップ「睡眠についての正しい知識を知る」「よ



い睡眠をとるための方法を実践する」「ご自身にとってのよい睡眠を実感する」について話があった。講座では、時折〇×クイズや質問に答えながら自身の睡眠知識を確認した。

第2回では、「よりよい睡眠をとるための睡眠環境（寝具編・寝室環境編）」、最後に「睡眠お悩み別解決方法」を聞くことができた。よい睡眠をとることは病気のリスクを減らし、健康に繋がる。睡眠は年齢を経るとともに短く浅くなるので、過去や他人と比べるのではなく、今の自分に最適な睡眠を見つけることが重要であると分かった。

会場には血管年齢や自律神経などをチェックできる機器が持ち込まれ、受講者たちは自分の健康と向き合えた日となった。



ほりがね

堀金冬期スポーツ大会

堀金公民館は2月9日、本大会を堀金総合体育館で開催し、冬期の運動不足解消と地域住民相互の融和を図った。

「ソフトバレーボール」は4人、「ポッチャ」は3人、「シャッフルボード」は4人が常時出場する。3競技の地区公民館による対抗試合を行い、選手101人に応援を含め150人程が参加した。

選手は男女を問わず小学校4年生以上で「ソフトバレーボール」は田多井地区が優勝し、準優勝は田尻地区。「ポッチャ」



は小田多井地区が優勝、岩原地区が準優勝。「シャッフルボード」は岩原地区が優勝し、準優勝は田尻地区の結果になった。

戸数や人口が少ない地区が、地区役員や体育委員を総動員して盛り上がりを見せていた。



ほたか 健康づくり講座 ～シニア向け太鼓教室～

穂高公民館は11月12日に本講座(全8回の第1回)を開催した。

講師は日本太鼓財団公認指導員で「あづみの鼓友会」の中村徹さん。中村さんはシニアの方にも太鼓演奏の楽しさを体験してもらい、フレイル(加齢による心身の老い衰え)予防にも役立つようにと本講座を担当した。

初めに講師の自己紹介があり、続いて参加者16人から「知り合いが太鼓を打つ

姿に憧れた」「演奏を聴くだけでなく一度は叩いてみたかった」「太鼓に興味があったが今までチャンスがなかった」などと意欲が語られた。

その後、講師から「太鼓の皮は雌牛など、バチは樫の木などで作られている。バチは木の種類で音が変わる。太鼓は叩くのではなく打つ。人の心を打つ。打つ場所や方法で音色が変わる。演奏は身体だけでなく頭も使う。太鼓演奏の指揮者役の『鉄筒』という楽器がある」など太鼓について多くの説明がされた。

続いて、太鼓が全員に配られ、太鼓の具体的な打ち方や姿勢の指導があり、参加者が実際に打ってみた。次に太鼓独特の楽譜により「故郷」の三拍子の太鼓打ちを何度も挑戦。繰り返すうちに身体も温まり、少しずつ上達して、みんなうれしそう。最後は「太鼓は楽しい！」の声が多く聞かれた。



あかしな

ワインと音楽のゆうべ

明科公民館は12月6日に毎年恒例となった「ワインと音楽のゆうべ」を開催した。冒頭「ワインぶどう生産屋」の池上文康さんが、安曇野周辺は温暖化でワイン用ぶどうの栽培に適してきたこと、併せて地元のワイナリーが増加し、全国一位の山梨県を抜きそうな勢いであることなどを説明。明科のワイナリーから2024年の新酒などが提供され、地元で活動する「えべや」の皆さんが用意してくれたクリームチーズのナッツ和え、カリカリチーズ



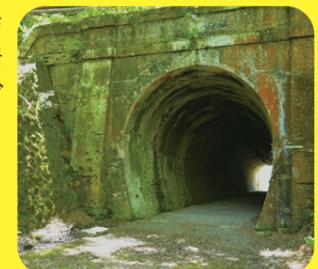
ピザなどワインと相性の良い料理がテーブルに並んだ。

中盤からは近藤聡さん(バイオリン)大野一子さん(ピアノ)、田中香帆さん(バイオリン)による演奏が華を添えた。近藤さんの軽妙なトークも交え、定番のクラシックから映画のテーマ曲まで幅広く楽しい演奏会。参加者はグラスを傾けながら聴き入っていた。



グループ紹介 「潮沢ロマンの会」(明科)

当会は旧JR篠ノ井線の廃線敷で知られる明科東川手の潮沢地区を中心に、歴史や文化の保存に取り組んでいます。廃線敷斜面に残された3万本のケヤキ林は、廃線以降、長らく放置され荒れていました。「先祖から受け継いだこのケヤキ林を守りたい」との思いから代表の寶喜吉さんら3人で2006年に「潮沢ロマンの会」を結成。廃線敷周辺ではボランティア組織「ケヤキの道」と共に下草刈りや間伐を行い、廃線敷コースを整備したり、善光寺裏街道や平家落人伝説など地元にもつわる歴史・文化を調査したり、精力的な活動を長く続けてきました。潮沢地区では、古くは綿羊や煙草で多くの人が生活をしていましたが、現在は人口減少が急速に進んでいます。何とかして地区の歴史・文化を後世に残していきたいとの思いで、現在も明北・明南小学校の子どもたちとの学習交流を行い、聞き取りなどの調査にとどまらない幅広い活動を行っています。



廃線敷 漆久保トンネル